

いのちの葉

香りが染みついていくように

普賢
保之

目次

しなやかな生き方	4
生きづらさの根源を知る	8
知らされる世界	12
ありのままの姿知らされる	16
厳しい現実通して見るおのれ	20
他の人のために	24
私たち救うため姿を現した仏	28
つかみ取って離さない	32
お念仏の道をただ一筋に	36
ありのままの自分が肯定される	40
自分自身と向き合う場	44
香りが染みついていくおのれ	48

しなやかな生き方

もし念仏ねんぶつするものは、すなはちこれ人中にんちゆうの好人こうにんなり、
人中にんちゆうの妙好人みょうこうにんなり

善導大師『散善義』

鈴木章子さん

皆さんは妙好人という言葉をご存じでしょうか。妙好人とは、念仏者をほめたたえた言葉で、お念仏を喜ぶ人は、人中びやくれんげの白蓮華びやくれんげのように尊くすぐれているという意味です。ここで紹介する鈴木章子すずきあやこさんも妙好人と呼ぶに相応ふさわしい方

した。

鈴木さんは乳がんを患い、一九八八（昭和六十二年十二月三十一日に往生）されています。闘病中にたくさんの詩をお子さんたちに書き残されていました。その中の一つに「幸福をよぶお茶」という詩があります。

「誰から私の病を聞いたのか 『幸福をよぶお茶』というのを 売りにきた
癌の末期患者が治るとの事 『いつ死んでもよし』と 生への執着離したつもりが こんな話きく度 ふと そんな気になる 仲々 離しきれぬ手を見せてくれる」（『癌告知のあとで』）

私はこの詩が大好きです。つらい時、無理に頑張らなくてもいいのだと言われているようにほっとするのは、鈴木さんは生に執着する自分を否定するこ

となく、そのまま受け入れていきます。念仏者のしなやかさがよくあらわれています。

ありのままの自分

もし私が命に関わる病気を患ったら、取り乱して泣き叫ぶかもしれません。もしお念仏の教えに出遇であえていなかったら、そんな自分を否定し、ただ絶望して苦しみを増幅させてしまうだけでしょう。

私たちは元気な時は、人間の理想の姿を描きながら毎日を過ごすこともできます。ところが、自分の存在そのものが脅おびかされるような状況に陥ると、理想的な姿ではいられなくなります。うろたえ恨み言が出るかもしれませぬ。健康

な時には見向きもしなかった「幸福をよぶお茶」の類たぐいに手を出すかもしれませぬ。とても理想的な自分ではいられなくなります。しかし、そんな自分も現実の姿なのです。

鈴木さんはがんを患って、理想的な姿ではいられない状況になりました。しかし、鈴木さんはすでにお念仏の教えに出遇っていました。お念仏のおかげによつて、理想像とはかけ離れた、ありのままの自分を受け入れることができました。鈴木さんの詩を読んでいると、しなやかな生き方にほっとさせられます。

お念仏はどんな時にも、私たちをそのまま救い取ってくださいなのです。